2030年の稲城を描く市民会議　提言書

わたしたちが描くまちの姿

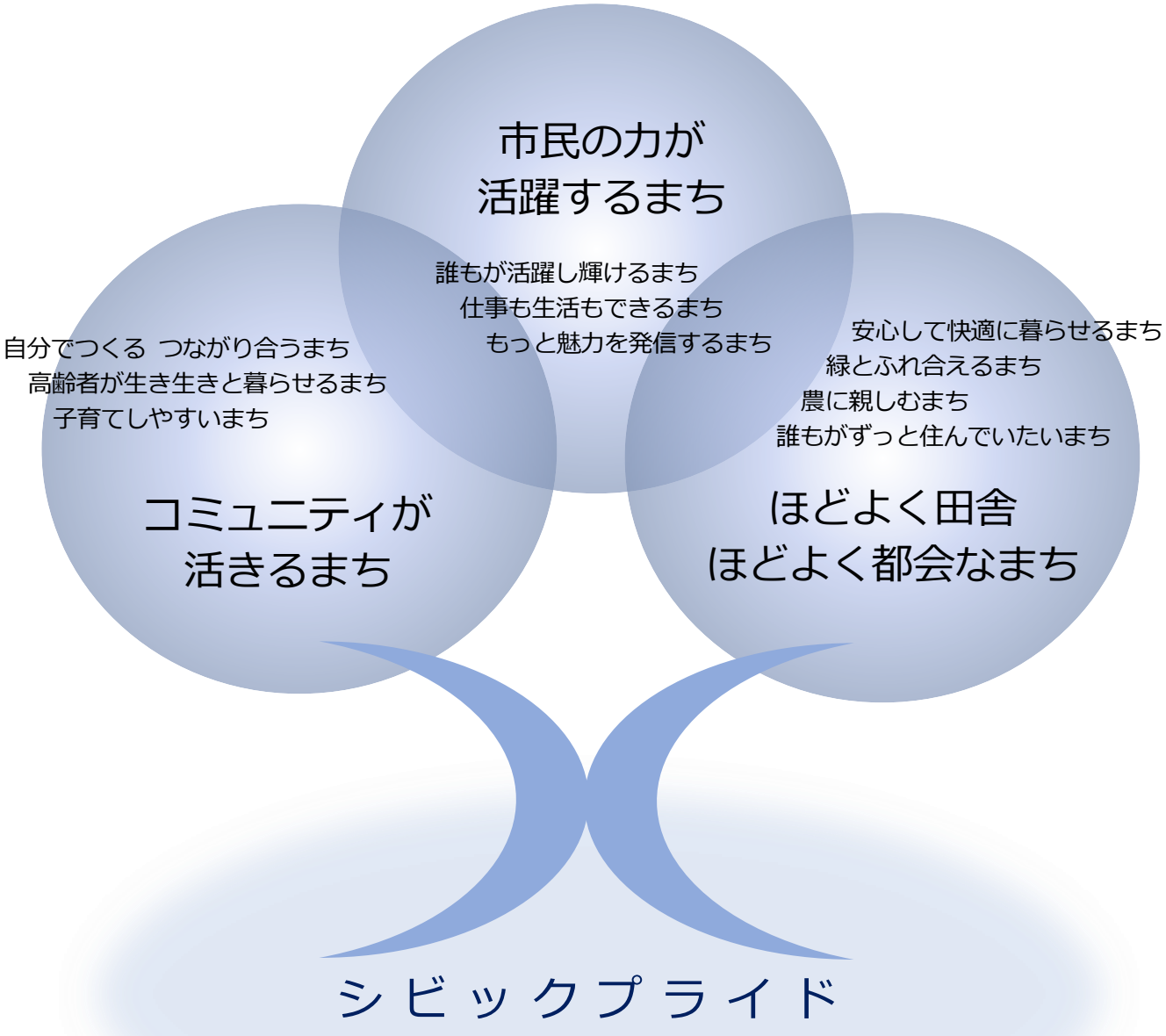
～10の暮らしたいまちを通してみえてきた3つの姿～

2019

2030年の稲城を描く市民会議

2030年の稲城

10のまちを通して描く３つのまちの姿



10 の暮らしたいまちを通して描いた 2030 年の３つのまちの姿。

そのまちに暮らす人々が持ち、まちを支え、まちを形作っているもの、シビックプライド。
このまちに住む私たちが、このまちに関わり、このまちを良くしていこうという意識。

私たち自身がまちを形作っているという誇りを持って住み続けたい、そうした市民が一人でも多く暮らす稲城を、私たち市民と行政とがいっしょに目指していきたい。

私たち市民が、シビックプライドを持ってまちに関わり、作り上げていく 2030 年の稲城。

「2030 年の稲城を描く市民会議」

2030 年の稲城　1

市民の力が活躍するまち

良好な住環境に魅力を感じ、稲城市では、今日でも市民が増え続けています。こうした中で、シビックプライド（自分たちで地域を良くしていこうという市民の誇り）の精神を持つ市民が増え、誰もが楽しく快適に暮らせる稲城市に自分達でしていこうという積極的な活動が見られます。

稲城市の都市としての活力を維持し、さらに発展させていくためには、市民同士が働きかけ、つながりを深めるとともに、行政とも協働して、誰もが活躍し、輝くことの出来るまちとなることを望みます。

2030 年の稲城　2

コミュニティが活きるまち

稲城市には、互いにつながり合い、助け合う温かい人々がいて、そうした人々がつくる様々なコミュニティが形成されています。

2030 年に向けては、人やコミュニティの新たなつながりによって、私たちの周りにある様々な課題を改善出来るのではないかと考えています。

これまでのつながりを大切に守っていくとともに、誰もが世代や立場を超えて、積極的につながり合える機会や環境が充実することにより、これからも稲城市に愛着を持ち、自ら関わり、住み続けたいと思えるまちとなることを望みます。

2030 年の稲城　3

ほどよく田舎 ほどよく都会なまち

稲城市は、充実した都市機能や都市基盤が整備され、都市としての利便性を享受できる一方で、豊かな緑や「稲城の梨」に代表される自然の恵みを身近に感じることのできる、田舎的な憩いの環境にも囲まれています。

快適に暮らせるほどよい田舎感、ほどよい都会感に稲城らしさが実現され、子ども達も含め多くの市民は、居心地の良さを感じています。

今後も「今を続ける努力」を行い、このほどよいバランス感をもった暮らしやすいまちを維持していくとともに、更により良いまちとなることを望みます。

2030 年の稲城の姿 ①

誰もが活躍し輝けるまち

稲城市には、まちを良くしていこうという思いを持ち、まちづくりに参加したいと考えている市民が多くいますが、「活動したいけど、どうしたらいいのかわからない。」といった声も聞かれます。そんな声を拾う仕組み、何かをして欲しい人と何かをしたい人とをつなげる仕組み、仲間が集まるための情報を発信する仕組み、仲間との活動を紹介する仕組みがあり、人と人、組織と組織をつなげるための効果的な情報発信が出来るまちを期待します。

そして、まちの人材が発掘され、個人の持つ能力をマッチングし、必要なところへつなげていくコーディネーターが機能することで、多くの市民が集まり、つながり、活躍していることを期待します。

（１）活躍し、輝ける仕組み（人材発掘と情報発信）のあるまち

多くの市民が集まり、つながり、活躍していくためには、それをサポートしてくれる人材、知識とモラルがある人＝コーディネーターの確保が必要と考えます。まちの人材が発掘され、創出され、つながって活躍していくことを期待します。

また、何かをして欲しい人と何かをしたい人をつなげる仕組み、仲間を集めて活動していることを外に紹介する仕組み、仲間が集まるための情報を発信する仕組みがあることを期待します。

〔会議の中で出た意見〕

〇知識とモラルを持ったコーディネーター

・一人ではなく、複数（コーディネーターズ）の人材確保

※市民が集まるためのサポートは、信頼面から市が支援

〇チャットボット、ＳＮＳ等の活用（※仲間を集めるための情報発信）

〇紙、看板、ネット、ＳＮＳ、ＡＩを活用した自動会話プログラムのチャットボット等、様々なコミュニケーションツールを活用した、仲間を集めるための情報発信やマッチング

（２）活躍し、輝ける場のあるまち

市民が集まりつながるための場が市内各所にあり、そこで市民が活動していることを期待します。

また、市民が自由に発想し、様々な取組を企画し、それを実行に移せる環境があることを期待します。

〔会議の中で出た意見〕

〇市内各駅の近くに、気軽にふらっと集まれる場づくり

※手続き（登録等）の必要がない場

※子ども、大学生、高齢者等誰もが気軽に集まることができる場

※世代を超えたコミュニティの場

※人が集い、心を通い合わせ、つながり合う場となるまちの縁側

〇集まった市民が自由に発想できる場

2030 年の稲城の姿 ②

仕事も生活もできるまち

稲城市には、若い世代も多く居住しており、高い能力を持ちながらも、子育てやその他の事情によりその能力を活用出来ていない市民が多いように思われます。

また、フリーランスで活動する市民も増えており、小規模に働く場や、今までにない働き方が生み出されて、働きやすい環境づくりも望まれています。

そうしたことを踏まえ、地域の世代間交流も活用し、仕事も生活もできる地域づくりを積極的に進めることによって、誰もが、それぞれの能力を活かし、それぞれのライフスタイルにあった働き方ができる、また、市民のチャレンジが応援されるようなまちを期待します。

（１）市民の能力が活用されるまち

稲城で出来ている世代間交流をもっと活用し、地域全体で子育ての負担を軽減し、子育ての魅力を共有出来るまち、子育て世代がもっと能力を発揮出来るまちになることを期待します。

〔会議の中で出た意見〕

○能力を持っているのに活用されていない人材の活用

○女性の能力を活用・発揮するために、みんなで子育て支援

※女性の負担を分担←子育ての魅力をみんなで共有

○女性・男性関わらず、能力を結集・活用していく機能

○職住近接のまち、通勤しやすいまち、生活環境と職場が整ったまち

（２）創業する人が生まれるまち

大規模な企業を市内に誘致することよりも、むしろ小規模に働く場づくりや、今までにない働き方・仕事が生み出される環境づくりが望まれます。

市内でも個店レベルでの創業は見られるほか、中にはコミュニティビジネスをしている市民やフリーランスで活動する市民も増えており、農業も含め、自分の能力を活かしてチャレンジする人、活動する人が、もっと働きやすいまちになることを期待します。

また、新たなつながりや交流を進める中で、チャレンジしたい市民が応援される、空き店舗の活用などの小さなチャレンジも応援されるようなまちを期待します。

〔会議の中で出た意見〕

○個人（自営、フリーランス）で働ける支援の実施

○業として農業にも取り組める支援を実施し、農業を活性化

○稲城での創業支援を充実

※稲城で創業したい人が勉強できる場や、支援してもらえるような仕組

○空き店舗の活用等、小さなチャレンジも応援

（３）誰でもチャレンジできる市民主体のまち

新たなつながり・交流の中で、力を発揮できる人が発掘され、または育成されることで、地域の課題の解決を市民が主体で、あるいは行政との協働で行っているまちを期待します。

そうしたことで、市民が集まってきて新たな活動が始まる、または市民提案の事業が実現する、公共施設の運営に市民の力を活用する等、様々な取組みに誰もがチャレンジできるまちを期待します。

また、そういった市民の活動の場がつくられることを期待します。

〔会議の中で出た意見〕

○市民主体、協働のまちづくりの推進など

○文化センター等を民間の活力を活かして運営

○市民提案事業への市の予算化

○休日の会社員が地域の活動に参加する等、様々な形で市民活動したい人が活動できる場

○子ども、学生、高齢者も含め、誰もが集まれ、活動できる場

○市民がセミナーやイベントを企画したり、自由に発想したり、活動できる場

2030 年の稲城の姿 ③

もっと魅力を発信するまち

稲城の良さである、“ほどよく田舎でほどよく都会”なまち。
稲城市の環境や地域資源、稲城市に住む人やそのライフスタイルなど、私たち市民自身もその良さを十分理解していないことから、市全体としての情報発信力が弱く、その強化を図ることが必要です。

効果的な情報発信により稲城の良さを再認識してもらい、自分の住むまちとしての誇りが広がっていくような取組みが期待されます。

また、地域資源を発掘し、魅力を育て、その魅力を私たち市民も含め、市外の人とも共有し、発信していくことが期待されます。

（１）市民自ら積極的に発信するまち

稲城の良さを私たち市民自らが認識していないと、他の人に発信することはできません。地域の中で自分の役割・意義を持ち、自分のいるこの地域を良くしていこうというシビックプライドの考えに基づき、私たち市民一人ひとりが稲城の魅力を再認識し、内外に積極的に発信し、地域を活性化させていくことが重要です。

また、市民だけではなく、市内の発信力のある事業者や行政も協働し発信することにより、発信力をより強化し、効果的に発信していくことも期待されます。

〔会議の中で出た意見〕

○シビックプライドの広まりと行動
○市民同士で稲城の良さを知る
○市民から市民への情報発信
○市民同士が互いに良さを発信し合い、地域を活性化
○稲城の良さを感じた人が自主的に発信（グループで発信）
○市民のまちへの愛着・誇りの醸成
○オール稲城での取組推進（市民・行政・企業）
○企業による沿線価値の向上・ＰＲ
○市民、ＮＰＯ等の情報発信力の活用

（２）魅力を発信するまち

「稲城と言えばこれ！」と言えるものがあまりないのが現状です。新たな魅力の発掘・創出を行なう一方で、既存資源の活用と磨き上げを行なうのが望ましいと考えます。

また、“ほどよく田舎でほどよく都会”の稲城ならではのライフスタイル、そして人そのものが最大の魅力でもあり、資源でもあります。稲城での生活を楽しむ人達の声を内に外に発信していくことが期待されます。

〔会議の中で出た意見〕

○市立病院、体育館、中央図書館、よみうりランド、ペアテラス等の既存資源の魅力発信

○街路に名前をつけて親しみをプラス、魅力を付加

○稲城と言えばこれ、といったものを創出し、発信

○市内外に「稲城のライフスタイルや人」を発信

○縄文時代から続く「稲城」の歴史も魅力

（３）魅力をデザインするまち

稲城が作るからこそ、稲城の良さが伝わるデザインで、内外にアピールしていくことを期待します。市外の人には稲城の良さを表現したデザイン、市内の人には、自信や誇りを持てるようなデザインが望ましいと考えます。

また、ターゲットに相応しい発信ツールを選択し、効果的に稲城の良さ、魅力を伝え、認知度を向上させるため、様々な市民のコミュニティを活用し、アピールしていくことが期待されます。

〔会議の中で出た意見〕

○外には、稲城の良さが伝わるデザインでアピール（イメージカラー等）

○市民には、稲城に誇り・自信を持てるようなデザインでアピール

○市が方向性（戦略）を示し、市民・事業者等の発信力を活用

○発信先（ターゲット）に対応した情報ツールの活用

○口コミ、紙もの、ＳＮＳ、Ｗｅｂ、広報誌等の使い分け、組合せ

○市が地域のブランド化、シティプロモーション等方向性を提示

2030 年の稲城の姿 ④

自分でつくる つながり合うまち

稲城市では、住む人が増え続けているものの、人と人とのほどよい距離感、ほどよい近所付き合いがあり、コミュニケーションの場も豊富であると考えます。地域型コミュニティやテーマ型コミュニティなど従来のコミュニティと併せ、新たなコミュニティが活発に生み出され展開されていますが、今後はコミュニティが互いに交流し、つながりが広がっていくことで、新たなコミュニティが創出され、市民が活発に活動しているまちを期待します。

（1）新たなつながり、コミュニティのまち

① 多様な世代での交流

稲城市に今あるコミュニケーションの場が広がって、顔見知り、顔なじみの関係が広がっていけば、生活の安全、安心にもつながり、ご近所での互助の力が発揮され、ずっと住んでいたいまちにつながっていくと考えます。

市民同士が気軽に集まり、世代や立場を超えて交わり、ふれ合えるまちを期待します。

〔会議の中で出た意見〕

〇世代を超えたコミュニティの場づくり

〇子育て世代と子育て終了世代の交流の場（子育て世代の孤立を防ぐ）

〇参加しやすいお祭りや稲城みんな食堂等、子どもから高齢者まで参加できるイベント

〇人のつながりが活性化すれば、犯罪が少ないまちに

〇ほどよい近所付き合いは、孤独死の予防や、核家族が世代間交流する機会

〇元気な高齢者同士のコミュニティによる互助の力

② 新しいコミュニティ

現在、自治会やみどりクラブ、同好会など、地域や世代、テーマごとに、様々な市民のコミュニティが活動しています。これらの地域型コミュニティやテーマ型コミュニティが互いに交流し、横のつながりが広がっていくことで、新たなコミュニティが創出され、参加の輪が広がり、市民が活発に活動しているまちを期待します。

そして、これから私たち市民が、より主体的に力を発揮することで、私たちのまちをより活性化し、新しい展開が生まれるまちになっていることを期待します。

〔会議の中で出た意見〕

○コミュニティの横のつながり、各町（10 地区）の交流の機会づくり

○地域型コミュニティとテーマ型コミュニティの交流活発化

○既に活動しているコミュニティのつながりを強化

○若い世代の加入促進による、自治会の新たな展開

（２）人をつなげるネットワーク・ツールのあるまち

様々な市民グループの横のつながりを強化するため、つなげる人・つなげる組織のあるまちを期待します。

稲城に住む人材を発掘し、個人の持つスキルをマッチングさせる機能、ネットワーク機能の充実が期待されます。

そのため、人と人、組織と組織をつなげるための効果的な情報発信が出来る、稲城ならではのツールを持つことを期待します。稲城の良さが伝わるデザインで、多様なコミュニケーションツールを活用した情報発信が期待されます。

〔会議の中で出た意見〕

○活動しているグループの横のつながりを強化

○人材発掘、個人の持つスキルをマッチィング

○市民版稲城広報（稲城の良さが伝わるデザイン）による情報発信

○コミュニケーションツール（紙・ネット・看板等）の充実によるマッチング

（保育学生⇔子育て世代、デザイン⇔店舗）

（３）交流し、入れ替わり、続いていくまち

稲城は縦の交流は多いものの、横の交流が少なく、稲城全体で、昔の家族のようなものが実現できることも必要と考えます。

そのため、常に若い世代が新しく定住し、若い世代から年配の世代まで多世代交流のまちとして、人がずっと入れ替わり続いていくまちとなることを期待します。

〔会議の中で出た意見〕

○女性や男性の能力を結集・活用する機能づくりとそのための場の確保

○女性が社会とつながる場の確保

○社会の世代や立場等（縦・横）に関わりなく交流できる場の確保

2030 年の稲城の姿 ⑤

高齢者が生き生きと暮らせるまち

元気に生き生きと暮らす高齢者は、地域の活力となっています。その一方、高齢者の仲間入りとなる市民の中には、少なからず不安を抱える人もいます。そのため、自ら生きがいを持って地域社会に参加していく「自助」や、隣近所のちょっとした助け合いである「互助」の意識、そして、地域包括支援センター等による「公助」が大切です。

多世代が交流し、助け合いながら、地域全体として、高齢者が元気で活躍しながら生き生きと暮らせるまちであることを期待します。

（1）人と人とがつながるまち

① 誰でも参加できる地域の小さな自助・共助グループのあるまち

高齢者がお互いに助け合える、隣近所の付き合いから発展するような、誰でも参加出来る、地域のボランティアグループが市内に広がり、気軽に日常の小さな困りごとを助け合える活動が展開されていることを期待します。

〔会議の中で出た意見〕

○隣近所のつながりをベースに相互に手伝い合えるボランティアグループの育成

○ちょっとした困りごとへの対応、買い物、ごみ出し、話し相手などの助け合いの展開

② 気軽に、飽きずに参加できるグループ活動

高齢者が人とのつながりを保ち、生き生きと暮らすために、地域の人材のキャリアを活かした食事会、落語会、音楽会など、楽しく飽きずに参加しやすい交流の場が、それぞれの地域で催されていることを期待します。

〔会議の中で出た意見〕

○孤立した高齢者を作らない地域グループ

○気軽に参加できる小さい規模の地域活動グループ

○地域にいる人材を活かした落語会、音楽会などの自主運営や定期的な開催

○交流の場への参加のハードルを下げ、楽しく交流できる場づくり

○地域の専門的な人材とのコラボによる催しの開催

（２）地域の自助・共助グループが育つまち

地域の小さな自助・共助グループの活動が円滑に継続、発展していくために、専門的な知識や経験を持つ人材等がコーディネーターとなり、運営がサポートされていることを期待します。

〔会議の中で出た意見〕

○様々なボランティア、会を運営してきた先輩方による、グループ活動サポートの仕組みづくり

○専門家・コーディネーターとしての自助・共助グループ運営の支援

（３）ボランティアで助け合うまち

元気な高齢者やＰＴＡなど、様々な世代に、ボランティア活動等の助け合える体制が普及していることを期待します。

また、介護支援ボランティアの取組みも参考に、有償型ボランティアも含めた参加者の拡大を期待します。

〔会議の中で出た意見〕

○高齢者の社会参加のひとつとして、ボランティア活動

※社会の中での役割を持って活動することの誇り、生きがい

○元気な高齢者の地域のボランティア活動への参加の働きかけ

○ＰＴＡなど、若い世代がボランティア活動を展開していくよう働きかけ

○介護支援ボランティア等、ボランティアポイント制の活用

○社会性のある高齢者を増やしていくため、学校法人駒澤学園等でシルバー向け講座を実施

（４）孤立しないまち

交流の場や地域のボランティアグループ等への参加が難しい人に対しては、地域包括支援センター等の公的機関による訪問、サポートを充実することにより、高齢者が孤立しないまちであることを望みます。

〔会議の中で出た意見〕

○外に出ない、出られない高齢者が孤立しないためには、訪問等の手段が有効

○地域包括支援センターなど公的機関・専門家による訪問・サポートの継続・充実

2030年の稲城の姿 ⑥

子育てしやすいまち

稲城市の子ども達は近所の人とのあいさつや、地域のイベント等を通して地域とのつながりを強く感じています。

また、子育て世代は、稲城は環境が良く、施設も集約されていて子育てしやすいと感じています。しかし、稲城市の子育て世代はその多くが核家族であり、頼れる人、助け合える場の不足や、子育てに関する情報不足を感じています。

こうした地域において、子育てをしている人と、子育てを終え、子育てを支援したい人がつながり、全世代的に子育て出来るまちになることを期待します。

また、子育てをしている人に必要な情報が確実に届くようになり、子育てをしている人同士がつながることで、安心して子育て出来る環境が整い、保育を学ぶ大学生も交えて、子どもの心と命を大切にしながら、地域ぐるみで育てられるようになることを期待します。

（1）みんなで子育てするまち

① 支援する人と支援される人のつなぐ仕組みの構築

稲城市には、人にやさしい高齢者や市民が多くいることを、子ども達を含め、私たち市民の多くが感じています。こうした環境で子ども達が日々を過ごせることは、稲城市の魅力である一方、手助けを求めている親子も少なからずいます。

子育ての支援が必要な人と、支援したい人、支援できる人とがつながる仕組みができ、交流できる場や機会が提供されることで、様々な世代が子育ての魅力を共有しながら、子育ての負担を分かち合える環境が期待されます。

〔会議の中で出た意見〕

○周りの人と一緒に子育てする環境づくり
○子育てを終えた世代との連携で、全世代が子どもをみんなでみてあげる仕組み
○子育て世代（特に母親）を支援できる人の発掘や発見
○子育てと仕事との両立が出来るよう助け合える制度
○気軽に、お金をあまりかけずに支援を頼める環境・制度
○子育て世代を支援できる人を発掘・発見
○子育てをする親の負担をみんなで分担し、子育てをする親はもっと自らの能力を発揮
○子どもの心と命を大切にするまち

② 子育てする人のサークル

稲城市には、子ども家庭支援センターや児童館、公園等、子育てをする人が利用できる場所やサービスが多くありますが、その場を知っているか否かで、子育て環境の大きな格差が生まれています。また、相談する相手がおらず、子育てに悩む若い世代も市内には多くいます。

子育てをする人に必要な情報が届き、子育てをする人同士が新たにつながりを持つことで、情報を共有し、安心して子育て出来る環境となっていることを期待します。

〔会議の中で出た意見〕

○誰もが気軽に集える（フラットな：上下関係のない）場づくり

○子育てに関する情報が必要な人に確実に届く仕組み

○子育てをしている人への情報を見やすく集約・提供

※子ども家庭支援センターや遊びの広場等がいつ開いているか等の情報

○ケアマネの子どもバージョンの検討

○子連れでも集える場作り、子ども食堂などの取り組み

○子どもの心と命を大切にするまち

（２）大学や学生との連携

稲城市は、駒沢女子大学・短期大学を含む学校法人駒澤学園と、連携協力に関する包括協定を締結しています。駒澤学園には保育を学ぶ学生もおり、乳幼児とのふれあいを通して、子育てをする人との交流が広がることを期待します。

同様に、他の大学に通う市内在住の大学生にも参加の機会が広がり、育児の実体験をする等の貴重な体験をしながら、子育てをする人の一助となり、地域全体で子育てへの関わりを持てる環境となることを期待します。

〔会議の中で出た意見〕

○大学施設を活用した乳幼児と学生のふれあい

※子育ての手伝いをしたい学生と子育ての支援が欲しい人のマッチング

※駒沢女子短期大学には保育科、市内在住の他大学の学生も

2030 年の稲城の姿 ⑦

安心して快適に暮らせるまち

安心、快適の前提に安全が確保されていることが絶対であるとの視点から検証し、災害への不安や防犯面・交通事故等への不安は、子ども達も含め、多くの市民が感じているものの、現在の稲城市の状況に、私たち市民は概ね満足していると言えます。

けれども、私たち市民が、これからもずっとここで暮らしていくことを考えたときに、高齢になった時の生活面、移動手段に不安が残ります。普段の生活の中で、コミュニティや地域のボランティアにより助け合えるまちを期待します。

（１）安心なまち

日常生活や困った時のサポート、交流や近所の支え合いなど、自分自身が自立し、お互いに助け合い、つながり合っていくことで、地域全体としての安心感が醸成されることを期待します。

〔会議の中で出た意見〕

○ママ友・子育て世代のＳＮＳ等、横につながる力の活用

○引きこもりの高齢者の方への、（元気な高齢者など）周りからのサポート

○社会性のあるシルバーに向けた教育

※元気なシルバーによる見守り隊、駒沢女子大学でのシルバー教育開講

○買い物など普段の生活への支援（買い物ボランティア等）

○安心安全な生活のため駅前交番を設置

（２）快適なまち

稲城市は都心までほどよい距離に位置し、市内に駅も６つある等、交通が便利なまちと考えます。

現在の交通の利便性は概ね評価されますが、市内は坂道も多く、地域によっては移動に車が必要であり、高齢となった際に不安が残ります。

買い物をはじめとした日常生活について、ボランティアも活用した移動手段の充実等も含め、市内の移動が便利なまちであることを期待するとともに、身近な商業施設を含め、生活の利便性が高いまちを期待します。

〔会議の中で出た意見〕

○駅と居住地を結ぶ公共交通の充実

○市内移動に便利な交通機関（バス等）運行へのボランティアの参画

○低価格タクシーや市内大学の送迎バスとの連携等を検討

○高齢化に伴い身近な商業施設（商店）が必要

（３）安心・快適なまちへ向けて助け合うまち

安心感を持って、快適に暮らしていくためには、様々なコミュニティが、世代や立場を超えてつながり合い、普段の生活の中で助け合えるボランティアが促進されることを期待します。ボランティアの促進のためには、インセンティブをつけることも有効であると考えます。

〔会議の中で出た意見〕

〇世代を超えた斜めのつながりによる、多くの人の参加促進

〇みんなの食堂、買い物ボラ、運転ボラ、元気シルバーによる見守り隊など

〇普段の生活でのボランティアを促進するインセンティブづくり

〇普段の生活でのボランティアの促進

〇稲城らしいインセンティブ

※梨のプレゼント、地域商品券、温泉無料券など

2030年の稲城の姿 ⑧

緑とふれ合えるまち

稲城市は、都心への近接性に恵まれた立地環境にあることから、開発による緑の減少が続いています。今のこの優れた環境を次代に伝えるために、市による計画的な保全への取り組みが必要である一方、市民がその価値を知り、保全活動を促進していくことも重要です。

現在、市内の小学生や中学生の緑に対する関心度は非常に高く、身近な緑に対する愛着が感じられます。市民が親しみを覚え、誇れるまちであるためには、緑が残り、ふるさととしての快適さを感じることのできる、ほどよく田舎なまちであり続けて欲しいと考えます。

（１）緑を減らさないまち

緑の保全に向けた様々な制度を活用した取組みにより、計画的に緑を残していくことが期待されます。また、市民による緑地トラスト、里山ボランティアなど、市民の力を活用した取組みも期待されます。

〔会議の中で出た意見〕

○緑地保全のための制度的網掛け、市の計画への位置づけの検討
○民有の里山・緑の維持のための税制的支援等の検討
○宅地化に歯止めをかける仕組みづくり
○保全すべき里山の公園化等の促進・買い取り
○市民の協力による里山トラスト、緑のトラスト（クラウドファンディング）
○市民による里山ボランティアの促進

（２）緑を活かすまち

里山のほか、公園や街路樹も身近にある緑であり、これを日常の中で活用することは緑を守ることにつながっていきます。市内に公園は多くありますが、人が少ないため、親子で遊びに行きやすい、人が集まる公園にする工夫が必要です。川沿いの桜並木や街路樹など市街地における緑の質を保ち、景観に活かしていくことも期待されます。

〔会議の中で出た意見〕

○里山、緑を稲城の魅力とし、活用することで保全
○人で賑わう公園・ママが使いやすい公園づくり
○ソメイヨシノの並木を寿命により更新する際には長寿命の品種に
○多種の街路樹による街路の各地域特色付け

（３）緑をＰＲ・楽しむまち

稲城ならではの緑・自然を活かした観光推進が期待されます。また、市民しか知らない資源・魅力もあり、そうした稲城の魅力を活用することも期待されます。こうした取組みを通して、稲城の魅力がＰＲされ、交流人口や関係人口が増え、地域経済が活性化されることも期待します。

〔会議の中で出た意見〕

○稲城の売りは緑

○奥多摩や高尾のような“緑”のイメージづくり・発掘・ＰＲ

○稲城には沢山の魅力があり、その価値や活用を進める

※梨、大塚牧場、紅葉、湧水、ホタル、桜並木、星空、たぬき　等

○観光協会での緑を活かした観光づくり・ＰＲ

○観光振興ではなく、魅力のＰＲ・シビックプライドによる活動の結果として、関係人口や定住人口の増加、地域経済の活性化

○その時々の旬の魅力、沢山ある見どころ等のアプリ開発・ＰＲ

○小型の市内観光名所巡りのバス検討

○各駅へのペアテラス分室設置によるＰＲ

2030 年の稲城の姿 ⑨

農に親しむまち

農地は市街地の貴重な緑地であるだけでなく、農と人とのふれあいの場など多様な価値を有しています。

稲城市では、農家数は少なく小規模経営の特徴の中で、農地の保全・経営継続の困難といった課題もあります。また、農産物の中でも、野菜は少量多品種の生産であり、商業化が難しいといった特徴があります。

一方、稲城の梨は売れ行きがよく、稲城の梨に対する小学生や中学生の好感度は非常に高いものの、私たち市民が口にする機会が限られている現状があります。市民全体の梨と接する機会が充実し、より愛着が深まることを期待するとともに、梨の稲城、稲城の梨というイメージがより一段と向上していることを期待します。

今後、農と市民が近づき、農についての情報が広まり、私たち市民が農家を応援しながら、ともに農業をたのしむまちなることを期待します。

（１）農と人が近づくまち

農地は市民にとって親しみのある緑でもあります。身近に農地が保持されていることを期待します。また、土や農に触れることが高齢者の生きがいともなり、健康寿命が延伸するといった効果も期待されます。手ぶらでも参加できる農業体験や、市民が土にふれること等を通して、農業がより身近なものとなることも期待します。

〔会議の中で出た意見〕

○都市農業振興基本法の成立を受けた、農地貸出促進、農家レストランの出店

○シェア畑、駐車場つき家庭菜園、未利用地の活用（都有地）などの促進

○手ぶらで、子どもが農業体験出来るような仕組みづくり

○障がい者の就労場所としての農業

○農業を手伝いたい市民と手伝いが必要な農家のマッチング

（２）農産物を活かすまち

①少量多品種が売り

稲城市で生産されている野菜は少量多品目の栽培のため、産地として確立することは難しいですが、希少性を売りとし、地域で農を支える取組みが期待されます。

〔会議の中で出た意見〕

○少量多品種（希少性）を“売り“とする農業の確立

○地元の野菜を市内飲食店とコラボレーションして提供

○品出し、売れ残りの回収が農家の負担ならないシステムの確立

※近隣の取り組み事例を参考に

②流通・販売の促進

規格外農産物や傷物、売れ残り農産物が無駄になることも多くありますが、農産物の加工販売の促進や、地域の人が集まるコミュニティで消費する等、少ない農作物を上手に使い切る試みが期待されます。

また、稲城の新鮮な農産物を買う場所を確保し、アピールする等、さらに市民が消費できる機会を増やすことも期待されます。

さらに、低農薬野菜などのニーズが高まる一方、虫食い、形の悪い野菜は売れない等の状況があります。農業・農産物に関する正しい情報を知り、私たち市民全体で身近な稲城の農産物を応援できるようになること期待します。

〔会議の中で出た意見〕

○売れ残り野菜の加工品開発・消費の促進

○売れ残り野菜・規格外野菜⇒お家ごはん（地域でのご飯会）、稲城鍋、市役所マルシェ、市役所食堂、給食で活用して残さない工夫

○近くの販売所、大規模な道の駅の確保

○形の悪いトマト等を利用する教育、給食での地場野菜の利用促進

○梨もぎ、ブドウ狩り、梨を育てる体験

（３）「梨」と親しむまち

都会としての利便性がある稲城市に住みながらも、梨という食べ物を地域で産み出している本市に誇りを持っている小学生や中学生は非常に多く、自慢の一つとなっています。

そのため、子どもたちが梨に触れる機会、市民が梨を口にする機会、市民全体が梨と接する機会が増え、梨に対する愛着が深まることを期待するとともに、梨畑は、市民にとって愛着のある梨を産み出すだけでなく、親しみのある緑でもあり、梨畑が身近に保持されていることを期待します。

規格外の梨等を活用した商品や関連グッズの開発、梨関連のイベント等によっても、市民と梨との接点が大きくなると考えます。

また、梨自体のブランド化だけではなく、「梨の稲城」としての地域のブランド化を進めることにより、都心にはない稲城市の付加価値を高めることに活用されていることを期待します。

生産量では全国で上位とはならないものの、これまで以上に稲城の梨、梨の稲城のイメージアップが進んでいくことは、喜ばしいことであり、自慢のまちにつなげられることを期待します。

〔会議の中で出た意見〕

○子ども達（小学生等）が梨に触れる機会づくり（受粉体験等を全学校で）

○市民が口にする機会の拡充

※市内のスーパーでも見られるように

○「梨の日」の制定

○梨を街路樹にした梨街道

○なし＋アートの取組み（シール等で型に色抜きした梨、梨をデザイン化した商品等）

○梨を食材とした商品開発

※くず梨の活用も含め

○食品だけでない関連グッズの開発

○多様な広報（ホテル、レストラン、市内商店、デザイナーとの連携）

○梨自体のブランド化だけではなく、「梨の稲城」としての地域のブランド化

※都心にはない稲城市の付加価値

○稲城なしのすけの活用（※他のゆるキャラとのコラボ等）

○梨畑の確保・保護の支援

2030年の稲城の姿 ⑩

誰もがずっと住んでいたいまち

市民は、「ほどよく田舎でありつつも、ほどよく都会」である稲城市に住み心地の良さを感じています。私たち市民にとって、「こころのふるさと」であり、巣立った子どもたちにとってもふるさとであって欲しい。

この気持ちが次代にも引き継がれていくためには、ここに住む様々な世代に優しいハード面の充実や、超高齢社会に入っていく中での将来の不安を取り除くソフト面の充実が望まれます。人と人とのつながりやコミュニティが活発化し、顔なじみの関係が拡大することにより、子どもたちの見守りが広がるなど、誰にとっても安心・安全な、住んでいたいまちとなるよう期待します。

（1）ふるさととして誇れるまち

稲城には自然や遊ぶところが沢山あり、子育てしやすい環境です。

学生時代、働く時代、育児時代、高齢時代など、それぞれのライフステージに応じた住みやすいまちを期待するとともに、稲城を心のふるさと、自分のふるさと、子どものふるさととして、誇れるようなまちを期待します。ほどよく田舎で、自然と緑が残るまちを期待します。

〔会議の中で出た意見〕

○自然が残っているまち（多摩川、大丸用水など自然が豊富）

○生活の利便性が高く、快適に暮らせるまち

○ほどよい規模のまち

※市としてコンパクト（９万人程度の人口規模の維持）、緩やかな発展

○いい意味で「変わらない」良さを持ち続ける

○宅地化に歯止めをかける仕組みづくりが必要

○学生時代、働く時代、育児時代、高齢時代それぞれに応じた住みやすさ

○高い建物が少なく、繁華街が無いのが良い

○大型ショッピングセンターでなく、小・中規模の身近なお店

（２）人と人がつながるまち

ほどほどの近所付き合い程度の顔なじみの関係ができているまちが期待されます。そして、顔見知り・顔なじみの関係を作っていくために、コミュニティの場があるまちが期待されます。

この関係が安心・安全にもつながり、ずっと住んでいたいまちにつながっていくと考えます。

〔会議の中で出た意見〕

○ほどほどの近所付き合い（孤独死、核家族対応）、世代間コミュニティの活性化

○人のつながりを活性化させ、犯罪が少ないまちへ

○参加しやすいお祭り、子どもからお年寄りまで参加できるイベント

○稲城みんな食堂

（３）きれいで快適で安心なまち

私たち市民は、稲城市は静かできれいだと感じており、犯罪率も低く、概ね安心して快適に暮らしています。一方で、市内の小学生、中学生はゴミが多い、不審者が多いと感じている等、不安な面があるのも事実です。

また、市内道路等は概ね整備されているものの、自転車が通行しづらい部分、バリアフリーに対応していないところもあります。

「私たちの住んでいるまちをきれいにしよう」といった気持ちで、私たち市民がみんなでまちをきれいにし、また、障がい者も高齢者も誰もが安心して快適に暮らせるまちとなっていることを期待します。

〔会議の中で出た意見〕

○清潔なまち

※ゴミを捨てない、捨てさせない教育

※みんなで清掃する活動をずっと継続

○住んでいるまちをきれいにしたい心を醸成

○バリアフリーなまち（ニュータウンの段差解消）

○深夜は眠るまち（24 時間起きているまちでない）

○パチンコ店など騒がしい場所が少ない静かなまち

2030 年の稲城を描く市民会議 参加者名簿

平成 30 年8月2日会議発足時

井川 眞知子	島 正夫	戸谷 寿美
磯村 亜希子	所澤 和代	長井 陽海
太田 慶彦	末松 妙子	中倉 美奈子
加藤 拓也	杉村 隆行	西脇 智子
川畑 一夫	須田 勉	萩原 志帆
工藤 耕平	隅田 梓紗	早川 一樹
小島 健太郎	田中 明子	森崎 美月
境 剛一	冨永 順次郎	

（五十音順）

2030 年の稲城を描く市民会議の経過

【会議の開催】（全 14 回）

第１回　平成 30 年８月２日

市長あいさつ、自己紹介、稲城市長期総合　計画・2030 年の稲城を描く市民会議について説明

第２回　平成 30 年８月 31 日

市民会議の進め方、「2030 年、あなたはどんなまちに暮らしていますか？」をテーマに分散会

第３回　平成 30 年９月 28 日

今後話し合うテーマの決定、小中学生アンケートの内容について

第４回　平成 30 年 10 月 12 日

テーマ別討議

テーマ①「人がつながり自らやっちゃうまち」

テーマ②「高齢者が生き生きと暮らせるまち」

テーマ③「梨」

第５回　平成 30 年 11 月２日

テーマ別討議

テーマ④「仕事も生活も稲城で」

テーマ⑤「誰もがずっと住んでいたいまち」

テーマ⑥「緑」

第６回　平成 30 年 11 月 30 日

テーマ別討議

テーマ⑦「ほど良く居心地の良いまち」

テーマ⑧「安心して快適に暮らせるまち」

テーマ⑨「誰もが活躍し輝けるまち」

第7回　平成30年12月21日

テーマ別討議

テーマ⑩「稲城の良さをもっと発信」

テーマ⑪「農業をたのしむまち」

テーマ⑫「子育てしやすいまち」

第8回　平成31年1月25日

「みんなの稲城2030年アンケート」結果について、12のテーマ振り返り

第9回　平成31年2月15日

「2030年の稲城を描く市民会議提言書（素案）」について

第10回　平成31年3月15日

「2030年の稲城を描く市民会議提言書（素案）」について

第11回　平成31年4月19日

「2030年の稲城を描く市民会議提言書（案）」の決定

第12回　令和元年5月31日

「2030年の稲城を描く市民会議提言書（案）」への市民意見公募の結果について

第13回　令和元年6月14日

「2030年の稲城を描く市民会議提言書」の完成

第14回　令和元年6月28日

2030年の稲城を描く市民会議　市長へ提言

【『みんなの稲城2030年アンケート』の実施】

平成30年10～11月

稲城市立小学校12校の5年生・6年生、稲城市立中学校6校の1年生・2年生・3年生を対象に実施

【「2030年の稲城を描く市民会議提言書（案）」への市民意見公募の実施】

令和元年5月1日～17日

広報いなぎ、市公式ホームページ、市内公共施設において実施

2030年の稲城を描く市民会議　提言書

発　　行：2019（令和元）年６月
発 行 者：稲城市
〒206－8601
東京都稲城市東長沼2111
編　　集：2030年の稲城を描く市民会議
（稲城市 企画部 企画政策課 長期総合計画担当）
TEL：042－378－2111（内線531・532）
FAX：042－377－4781